平成２９年度　甲町立甲佐小学校　学校便り

清　流

目指す学校像
子どもの笑顔が輝き
勢いのある学校

No.３１（H29. 12. 8発行）文責 校長 福田雅也

寛　容　の　心

「ドライビング Miss デイジー」

３０年近く前の映画の題名です。ご存知でしょうか。映画が好きな方はお分かりいただけるかと思います。１９９０年第６２回アカデミー賞で作品賞を受賞した作品です。主演はジェシカ・タンディ（この作品で同年アカデミー賞主演女優賞を受賞）とモーガン・フリーマン。私はこの映画がとても素敵だと感じていました。公開当時に映画館で見たことはなかったのですが、衛星放送での放映をたまたま見た時、引き込まれるように最後まで見入ってしまった作品なのです。その時は、アカデミー賞を取っていたことすら知りませんでした。そのストーリーをお知らせするには、この紙面は到底少なすぎますが、簡単に紹介しますと、１９５０年代から６０年代を中心に物語は流れ、裕福な暮らしをするユダヤ人の老女とその運転手となった黒人男性との心温まる交流を描いたお話です。ストーリーの中心は、二人の心がつながっていくことなのですが、展開の中でその時代の大きな問題を表現している部分があるのです。前述のユダヤ人と黒人という言葉でお分かりになるかもしれませんが、人種差別の問題です。最初は、黒人の運転手に偏見を持っている老女ですが、その運転手の人柄にふれ、次第にその偏見がなくなり、人間的関係が深まっていきます。しかし、その老女もユダヤ人やユダヤ教が迫害される現実を突きつけられるのです。

なぜ今回このような記事を書いたかというと、今の世の中の状況があまりにも気になるからです。単なる学校便りに世の中全体のことを書いても仕方がないとは思いますが、書かずにはいられませんでした。例えばアメリカの状況です。ご存知のようにアメリカは移民の国であり、多種多様な人種が国民を形成しています。その過程では、上のような人種差別も経験してきたのです。しかし、それらを乗り越え、自由で民主的、先進的な国家へと成長してきたと認識していました。そのことが「ドライビング Miss デイジー」にも描かれていたと思うのです。ところがどうでしょう。そのアメリカは、過激なリーダーを選び、「アメリカ・ファースト」「移民排除」等の信じられないような民意で動き始めているのです。もちろん、それは人種や宗教の問題だけでないことは分かっています。今の状況がそのまま続くとは限らないとも思います。しかし、少なくとも自由で民主的で先進的な心の重要な部分である「寛容の心」が薄れ、自己中心的になってきていることは間違いないようです。

そして、これと似たような状況は私たちの身の回りでも起こっているような気がします。

現代は、先行きが不透明な変化の激しい時代であるとは言われてきましたが、こんなことが起こるとは思ってもいませんでした。

私たちはこの時代の流れの中で無力感を感じます。しかし、目の前には未来ある子どもたちがいます。この子どもたちに「寛容の心」や、大切な人権感覚を育んでいくことは、私たちにできることです。

私たちは、できることを大切にしながら、しっかりと取り組んでいくことしかできないのでしょう。しかし、それこそが大切なことだと感じています。